地域をつむぐ「縁結び人」養成塾
集合研修３日目
講義「プロデュース」
モデル事業の紹介

２０１２年9月２０日

**石井久子氏（知多市南粕谷コミュニティ　会長）**

南粕谷は知多市の最南端にある。昭和４７～５０年に、建売が増えた。コミュニティが発足して３０周年。イベントを中心としたふれあい事業を通じて、活気にあふれた地域づくりを目指して来た。伝統的な行事はなかったため、小学校を拠点としたまちづくりを進めて来た。

急激に人口が増加した歴史から、ある時期から課題解決型のコミュニティとして機能しだした。近年は小学校の生徒数が１３００人から２００人となり、小学校を守ろうと動いたことが、地域の原動力となった。土日に学校の図書館を開放し、地域文庫を実施している。市の中央図書館と連携し、地域の交流の場として活用されている。

一方、急激な高齢化が進んできた。全国の課題だと思うが、一足早く顕在化した。高齢化は人の気持ちを消極的にする。そこで、トトロの森フレンドシップ事業を実施している。小学校と保育園の近くにある里山だが、今は雑木林になっている。そこを地域一体となって里山整備を進めている。

安心して暮らせる街に住みたい。常設型サロン「南粕谷ハウス」を作りたいと思い、動き始めている。多様な参加者と共に話し合いを進めながら、よりよい南粕谷ハウスになるようにしていきたい。

**安井よう子氏（（特）もやい　代表）**

本日、半田市岩滑区の童話の村秋まつりが始まった。もやいでは水曜と土曜のみデイサービスを実施している。おひな様や、吊るし飾りを飾って、お茶とお菓子を振る舞っている。
今年５月に１５周年となった。

阿久比町は海に面していない。自然豊かな地域。人口は２６,０００人。若い人達がここに来て増えて来た。

今回のモデル事業としては、「みんなでつくるあぐいの夢事業」を実施する。この３、４年前から、地域福祉という言葉が出てくるようになった。地域福祉はたくさんの解釈ができる。数年前、阿久比町の夢を語る会をしたいと思った。地域の安心、安全が安定的にあることをめざしたい。

　もやいで、日本福祉大学のサービスラーニングを受けることになった。学生が地域に入って、地域の人たちと学び合うプログラム。１人６日間 NPO で体験学習をする。そこで日本福祉大学の原田正樹先生に出会い、もやいの事務所を使って、みんなボランティアで３ヶ月に１回、阿久比の夢を語る原田サロンを実施することになった。それを２年程続けて来た。

このタイミングで、たまたま阿久比町長が、住民税１％町民予算枠を打ち出して、案を募集していた。個人として、語れる人たちに声がけをし、今までつながったことのない団体とつながることにした。収集がつくのかどうかも分からないが、住民税１％町民予算枠に何か提案したいと思っている。